

# 詩仙堂 丈山寺

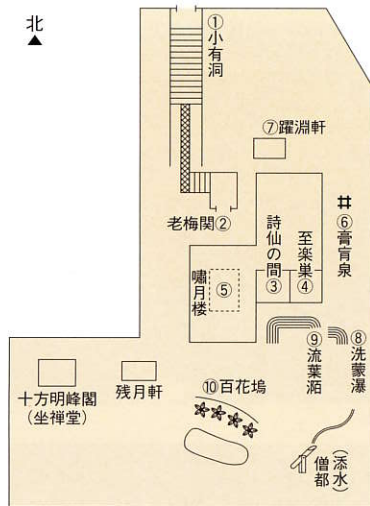


丈山寿像（部分）狩野探幽画

石川丈山は、天正十二年（一五八三）三河国（現在の愛知県安城市）に生まれた。石川家は父祖代々徳川譜代の臣であり、丈山も十六歳で家康公に仕え、近侍となった。松平正綱、本多忠勝等はその親族である。三十三歳の時、大坂夏の陣では勇躍先登の功名を立てたが、この役を最後とし徳川家を離れ、京都にて文人として藤原惺窩に朱子学を学んだが、老母に孝養を尽すため、広島の浅野侯に十数年仕えた。その後母を亡くした丈山は五十四歳の時、京に帰り相国寺畔に住居した。寛永十八年（一六四二）五十九歳で詩仙堂を造営し、没するまでの三十余年を清貧の中に、聖賢の教えを自分の勤めとし、寝食を忘れてこれを楽しんだ。丈山は隸書、漢詩の大家であり、また我が国における煎茶（文人茶）の開祖である。

寛文十二年（一六七二）五月二十三日、従容として、九十歳の天寿を終った。

## 石川丈山



### 交通のご案内

- 市バス  
京都駅・四条河原町・三条京阪より… ⑤ 岩倉操車場行  
地下鉄北大路駅より…………… ⑧ 松ヶ崎修学院道行  
地下鉄松ヶ崎駅より…………… ⑧ 高野北大路  
バスターミナル行
- 京都バス  
出町柳駅より…………… ⑤ 銀閣寺・詩仙堂行  
地下鉄松ヶ崎駅より…………… ⑤ 出町柳駅行
- 叡山電鉄  
出町柳駅より…………… ① 一乗寺下車

## 詩仙堂 丈山寺

〒606-8154 京都市左京区一乗寺門口町27番地  
TEL 075(781)2954 FAX 075(721)9450





さつきと嘯月楼



秋景（詩仙の間より）



残月軒と庭園

## 史跡 詩仙堂

現在詩仙堂とよばれているのは、正しくは凹凸窠であり、詩仙堂はその一室である。凹凸窠とは、でこぼこした土地に建てた住居という意である。詩仙堂の名の由来は、中国の漢晋唐宋の詩家三十六人の肖像を狩野探幽に描かせ、図上にそれら各詩人の詩を丈山自ら書いて四方の壁に掲げた。詩仙の間を中心としているところからよばれる。

丈山がこの堂に掲げるべき三十六詩人とその詩を選定したのは、寛永十八年、五十九歳の時であった。これは、我が国の三十六歌仙にならったもので、その選定には林羅山の意見も求め、左右十八人、それぞれの組合せに意味をもたせた。蘇武と陶潜、韓愈と柳宗元等七対は羅山の改定した所である。

建造物は後に寛政年間、多少変更を見たが、天災地変の難を免れ、庭園と共に往時をそのままに偲ぶことが出来る。

丈山はここに、凹凸窠、十境を見たてた。入り口に立つ(1)小有洞の門、参道をのほりつめた所に立つ(2)老梅関の門、建物の中に入り(3)詩仙の間、読書室である(4)至楽巢(狷芸巢)、堂上の楼(5)嘯月楼、至楽巢の脇の井戸(6)膏肓泉、侍童の間(7)躍淵軒、庭に下り、蒙昧を洗ひ去る滝という意の(8)洗蒙瀑、その滝が流れ込む浅い池(9)流葉澗、下の庭に百花を配したという(10)百花塙、その他丈山考案の園水を利用して音響を発し、鹿猪が庭園を荒すのを防ぎ、又、丈山自身も閑寂の中にこの音を愛し老隠の慰めとしたという、僧都(添水、一般には鹿おどしともいう)等は今も残されている。

詩仙堂の四圍の眺めを見たてた、凹凸窠十二景は画家に絵を描かせ丈山自ら詩を作ったものである。丈山の遺愛の品である「詩仙堂六物」、多数の硯、詩集である「覆醬集」等多数の品々が残されている。これは毎年五月二十三日の丈山忌後、二十五日から数日間、「遺宝展」として一般公開している。

現在は曹洞宗大本山永平寺の末寺である。詩仙堂の四季にはそれぞれ趣きがあるが、特に五月下旬の「さつき」、十一月下旬の紅葉等がすばらしい。